

臨床実践能力習熟段階(クリニカルラダー)一覧表

		レベル1(卒後1年)	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ
到達レベル		①基本的な知識・技術・態度を理解し、安全、確実な日常生活の援助ができる ②看護過程の展開ができ、自己の看護観を深めることができる ③病院組織、医療チームの一員としての態度を身につける ④患者、家族および職員とコミュニケーションをとることができる ⑤就業規則を理解し、社会人としての常識的な行動ができる ⑥看護に関連する法的規則並びに『看護者の倫理綱領』の内容が理解できる ⑦各種マニュアルについて理解できる ⑧新採教育プログラムに参加する ⑨院内研究発表会に参加する	①看護過程を踏まえた個別的ケアが実践できる。 ②プリセプターシップを理解し、プリセプティーに指導的に関われる。 ③日動リーダーの役割を理解し、業務を遂行できる。 ④倫理的配慮を踏まえた看護が提供できる。 ⑤患者の安全性を維持するため、自立して行動する。 ⑥ケーススタディーに取り組み理論的なアセスメント能力を身に付ける。 ⑦院内教育プログラムへ参加する。 ⑧院外の研修に参加する。 ⑨研究実践の中から、疑問や問題に気づくことができる。	①エビデンスに基づき、個々に合わせた看護実践ができる。 ②患者を身体的・精神的・社会的にとらえ、予測される問題を明らかにし、看護展開できる。 ③後輩及び学生に指導的に関われる。 ④日常業務、病棟内でのリーダーシップがとれ、チームのサブリーダーの役割が果たせる。 ⑤あらゆる看護場面で倫理的配慮ができる ⑥患者の安全性を維持するため、後輩を指導する。 ⑦院内・院外の学会や研究研修会に参加し知識を得る。	①専門領域において、看護単位内で役割モデルを遂行できる。 ②自己のキャリアアップに積極的に取り組む。 ③患者の安全性を維持するため、リーダーシップを発揮する。 ④委員会活動、院外の研修活動に積極的に参加できる。 ⑤看護実践を経済的視点から観察できる。(診療点数、医療材料、マンパワー、時間、情報など) ⑥医療におけるあらゆる場面で倫理的配慮ができる。 ⑦看護研究のリーダーができる。
	看護実践	技術	チェックリスト参照	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自部署の専門知識、助言を確実に習得する。 ・ 患者個別のニーズに対応した看護技術が実践できる。 ・ 自立して基礎的看護技術を手順に沿って行う。(日常生活の援助行為、診療の補助行為) ・ 支援を受けながら緊急事態に対応できる。 ・ 看護技術を患者に合わせて創意工夫できる。 ・ 時間を効率よく使い、計画的にケアができる。 ・ 未経験の看護技術が積極的に実践できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別的な看護ケアが実践できる。 ・ 根拠のある看護技術を用いてケアができ、他のメンバーの指導もできる。 ・ 専門領域における看護実践の役割モデルとなる。 ・ 緊急事態を予測して、対応できる。 ・ 緊急事態に対処して、的確にリーダーシップがとれる。
看護実践	情報収集	チェックリスト参照	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者、家族の全体像(心理的・社会的側面)をとらえた情報収集ができる。 ・ 日常業務の中で、患者、家族から意図的に情報収集ができる ・ 収集した情報から必要なものをチーム内に伝達できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者が安心・不安などを表出できるコミュニケーション技法を用いて、情報収集できる。 ・ 家族や社会問題について意図的に情報収集できる。 ・ 潜在的問題を明らかにし、チーム間で問題が共有できるように伝達できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者の問題の領域に的を絞り、選択的に情報収集ができる。 ・ 看護チームメンバーの情報収集の方法について指導できる。
	アセスメント	チェックリスト参照	<ul style="list-style-type: none"> ・ データーや身体上の変化を観察し判断できる。 ・ 問題解決可能な計画の立案ができる ・ 患者、家族の言動や表情から反応を観察し、判断できる ・ 収集した情報をカンファレンスで伝達できる ・ 患者、家族のニーズをふまえた看護計画が立案できる ・ 患者の退院後の生活像に合わせた患者のゴールを患者家族とともに設定できる ・ 他部門との連携を図り、退院調整ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護計画の評価修正を、的確に行い監査できる。 ・ 身体的、心理的、社会的側面を統合してフィジカルアセスメントできる ・ 看護問題に即した優先度を考えた計画が立案できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識、経験を生かし、的を得た看護問題が判断できる。 ・ 複雑なケアの問題に対して洞察と解決をもたらすような情報が記録できる
	実践評価	チェックリスト参照	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践したケアについて患者の反応を評価することができる ・ 看護実践を正確に記録できる ・ 実践した看護について評価できる ・ 自立して看護計画に沿った看護実践ができる。 ・ 患者の症状や反応を観察し、異常について報告し対処できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入院から退院までの包括的看護ケア計画を立て自ら実践する。 ・ 提供したケアが患者のニーズを充足していた評価できる ・ 看護計画の評価、修正を的確に行い監査できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提供した看護ケアについて質的、量的に評価し、状況に応じた支援、指導ができる。 ・ 患者の全体像を把握し、長期的展望で看護が実践できる。
管理	組織力管理	チェックリスト参照	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護部、所属部署の目標に連動した自己目標を立案し、実施することができる ・ 目標達成のための活動に積極的に参加する。 ・ リーダーシップを学び理解し、日動リーダーの役割を果たす ・ メンバーの役割を理解し、メンバーシップが発揮できる ・ 自部署の各係りの担当ができる・自部署環境や物品管理に気配りができる ・ 職場内の問題に対して、必要な報告、連絡、相談を適切に行うことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護部の目標を理解し、自部署の目標に取り組むことができる。 ・ 看護業務に責任を持ち、調整できる。・ 他者に教育的、指導的に関われる ・ 部署内における業務改善について建設的な意見が言え、具体案が出せる。 ・ 患者、看護スタッフに注意を払い、適切な支援ができる。 ・ リーダーシップを発揮し、問題、課題を自覚し、解決に向け行動できる。 ・ 看護実践を経済的視点から考察できる。 ・ 医療・保健・福祉の変化の情報に関心をもつことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護管理上の問題の発見やその解決のための方策を師長と主任とともに考えることができる ・ 他部門、他職種との調整ができる。 ・ 看護師長、主任を補佐し、病院看護部の目標に向け活動し、評価できる。 ・ 部署内における業務改善について建設的な意見が出せ、浸透させることができる。 ・ 師長、主任不在時、患者ニーズとスタッフの能力、安全対策を考慮して部署管理できる。 ・ 病棟業務がスムーズにできるようにコスト面を把握し、物品の補充や整備を積極的に行うことができる。 ・ 看護業務を含め病棟全体における経済的側面を把握し行動する。
	倫理	チェックリスト参照	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者の生命や人権を尊重し、倫理に基づいて行動する。 ・ 倫理的視点を持って看護ケアが実践できる。 ・ 患者の情報を口外したり、漏洩しないように医療人としての義務を遂行している。・ 患者、家族のプライバシーの保持に細心の注意と配慮ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者の生命や人権を尊重し、倫理に基づいて行動する。 ・ 医療チームにおけるさまざまなかわりの中で、倫理的、道徳的なジレンマに対処できる ・ あらゆる看護場面で倫理的配慮ができる ・ 受け持ち患者を通して看護倫理を深く掘り下げることができる。 ・ 患者の情報を口外したり、漏洩しないように医療人としての義務を遂行している。 ・ 患者、家族のプライバシーの保持に細心の注意と配慮ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者の生命や人権を尊重できる後輩を育成する。 ・ 医療におけるあらゆる場面で倫理的配慮ができる。 ・ 患者の情報を口外したり、漏洩しないように医療人としての義務を遂行している。 ・ 患者、家族のプライバシーの保持に細心の注意と配慮ができています。
	安全	チェックリスト参照	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時やトラブル発生時、支援を受けながら対処できる ・ 安全対策について問題提起できる ・ 医療事故防止、感染防止対策について情報交換し適切に対処できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時やトラブル発生時適切に対処できる。 ・ 予測外に起こるインシデント・アクシデントに迅速に対応できる。 ・ 職場内の医療事故安全対策を講じられ、マニュアルの見直しに積極的に関わる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急時、災害時の状況を分析し、評価できる。 ・ 患者の安全性を維持するためリーダーシップを発揮する。 ・ 医療事故防止感染防止対策について有効な対策が述べられる。
教育	チェックリスト参照	<ul style="list-style-type: none"> ・ 院内外の教育プログラムに目標を持って参加できる ・ プリセプターの役割を通して自己啓発ができる ・ 新人看護師が専門職として成長できるように教育的、精神的に援助できる ・ 看護部、病棟の勉強会に参加する ・ 疑問に対して自主的に学習し、実践に役立てることができる ・ 自分の看護を語るすることができる(看護観レポート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施指導の役割が果たせる。 ・ 研修や看護研究を通し、看護実践能力を高め、役立てることができる。 ・ 同僚や学生に対し、個性を尊重した適切な指導や調整ができる ・ 院内外研修に自主的に参加することができる ・ 自分の看護を語るすることができる(看護観レポート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床実習指導の役割が果たせる。 ・ 教育的視点で学生指導を担当するスタッフへの指導ができる。 ・ 自分のキャリア開発についての方向性を持ちそれに向かって行動できる。 ・ 臨床専門領域に関係する教育プログラムに参加する。 ・ スタッフのケーススタディーや研究をサポートできる。 ・ 院内外の研修に自主的、積極的に参加し、部署の看護活動に応用できる。 ・ 自分の看護を語るすることができる(看護観レポート) 	
研究	チェックリスト参照	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護研究の意義目的を理解し、研究メンバーとして、研究に参加することができる。 ・ 指導を受けながら研究に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究のプロセスを理解し、看護研究活動でリーダーシップがとれる。 ・ 発表原稿や論文をまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究を進め、院内外に発表する一員となることができる。 ・ 看護研究を通して看護の専門性を深め看護実践ができる。 ・ 看護研究の指導的役割を果たし、院内外での研究論文をまとめることができる。 ・ 有用な研究結果を臨床に生かすことができる。 	